



かとう・つぶさ

加藤 委

Tsubusa Kato

国	籍	日本 : 岐阜県 生まれ
生	年	1962年
職	業	陶芸家

選評: 梅原 猛

加藤委氏は、多治見市で桃山時代から続く陶家に生まれ、多治見市陶磁器意匠研究所で学び、ずっと地元で青白磁を中心とする作品を作り続けている陶芸家である。

磁土を荒々しく引き伸ばした作品や、鋭いナイフで切り落としたような面取の作品が特徴的であるが、そこにはあたかも研ぎ澄まされた日本刀のような殺気すら感じられる。そしてその殺気は清潔きわまるものであり、品格高い作品となっている。このような作品は公募展では見られないものであろう。作者は、円空の如く孤独に徹して創造の道を一途に歩んでいるのであろう。

円空大賞受賞がこの作家のいっそうの活躍の契機になるとともに、陶芸の伝統ある多治見の地で活動する若い芸術家への刺激になることを期待するものである。

作家略歴

- 1962 多治見市小名田町に生まれる
- 1979 多治見市陶磁器意匠研究所 修了
- 1986 尼ヶ根古窯発掘調査参加、「尼ヶ根古窯保存運動展」
- 1989 初個展 (サボア・ヴィーブル・東京都)
加茂郡富加町川小牧に移住し薪窯築窯
- 1996 「凛・現代の陶芸美展」(滋賀県立陶芸の森)
「磁器の表現・90年代の展開」(東京国立近代美術館)
「現代陶芸若き旗手たち」(愛知県陶磁資料館)
- 1999 「ファエンツァ、愛知、ソウル展」(コンテンポラリー セラミック アーツ・韓国)
スライドレクチャー、ワークショップ (ソウル産業大学・韓国)
- 2002 「現代陶芸の100年展」(岐阜県現代陶芸美術館)
- 2003 「白磁・青磁の世界展」(茨城県陶磁美術館)
金沢・世界工芸フォーラム2003 (石川県)
- 2004 「心のかたち・暮らしのかたち展」(岐阜県美術館)
「ミノ・セラミックス・ナウ展」(岐阜県現代陶芸美術館)
「行為する日々ー加藤委・金憲鎬展」(新世紀工芸館・愛知県瀬戸市)
「『陶磁』日本陶磁伝統と前衛」(フランス国立陶磁器美術館)
- 2006 「第2回パラミタ陶芸大賞展」(パラミタミュージアム・三重県)
- 2007 美濃茶会 (神言会多治見修道院・岐阜県)
- 2008 北の丸大茶会 (東京国立近代美術館工芸館)
- 2010 「交差する視点とかたち」(札幌芸術の森美術館・北海道)
- 2012 「ミノ・セラミックス・ナウ」(岐阜県現代陶芸美術館)



「サンカクノココロ」2012年
青白磁
50×50×50cm



「サンカクノココロ」2005年
青白磁
60×60×60cm
(撮影：齋城 卓)



「尖樹の森」2005年
青白磁
500×500×500cm
(撮影：齋城 卓)